

昆虫少年少女復活プロジェクト

大阪府立園芸高等学校

中村 和幸

1. はじめに

平成 26 年 6 月 14 日の毎日新聞朝刊でたいへんショッキングな記事を目にした。大阪府生物教育研究会の調査では高校生の 6 割が昆虫に触れることができないというものである。

また、大阪府営箕面昆虫館の久留飛館長の講演を生徒達と聞いたとき、小学 3 年生までに昆虫と触れ合う機会がないと、昆虫嫌いになるというお話があった。

2. 館長さんの話を聞いて生徒達が動いた

私の周りにはお陰様で昆虫少年少女が集まるようになった。彼等は自分達と同じように子供達が昆虫に興味・関心を持ってほしいと思っている。

そこで、次のような取り組みを行うことにした。

①小学校での出前授業
小学校に行き、昆虫に関する出前授業をしたい



写真 1 小学校での出前授業

と生徒達が言い出した。生徒達は自分の母校に小学校に行き、当時教えていただいた先生方に出前授業をお願いした。こんなことができるはずがないと思ったが、小学校 3 校から快諾をいただいた。

生徒達はパワーポイントを用いてわかりやすく昆虫やバタフライガーデンについて説明し、児童からは多くの質問があった。子供達は昆虫に興味を持っていることがわかった。

3. 小学生対象の昆虫採集イベントの実施

サイエンスフェスタ理科野外教室において小学生を対象にした昆虫採集講座を実施した。小学生と高校生がチームを組んで昆虫採集を行い、採集した昆虫を同定した。この講座には多くの小学生が参加してくれた。

4. バタフライガーデンづくり

近年、身近な昆虫が姿を見せなくなった。そのためビオトープやビオガーデンが造られるようになった。本校では身近な蝶を復活させるため、バタフライガーデン用植物の栽培と様々な団体と共同でバタフライガーデンづくりと昆虫調査も行っている。



写真 2 花野で昆虫採集をする生徒達

積水ハウスの本社ビルである梅田スカイビル公開緑地『花野』に 2000 m²のバタフライガーデンを造り、ここに 17 種類もの蝶の飛来を確認した。

能勢電鉄と共同でケーブル妙見山山頂駅にもバタフライガーデンを造るとともに、この場所で子供達が自由に昆虫採集できるようにした。

5. まとめ

ビオトープ部の取り組みによって昆虫少年少女が少しは復活したと思えるが、今後も様々なイベントを実施して昆虫に興味を示す少年少女を増やしていきたいと思っている。